

平成 30 年度 湖南省立図書館第 1 回図書館協議会 会議記録

- 開催日時 平成 30 年 7 月 5 日(木) 午後 3 時 30 分～ 5 時 30 分
- 開催場所 湖南省立甲西図書館 2 階 集会室
- 出席者 図書館協議会委員 8 人(欠席者 2 人)、教育長、事務局図書館長他 4 人
- 傍聴人 3 人
- 議 事
 1. 平成 29 年度市立図書館事業実績報告について
 2. 平成 30 年度市立図書館の事業方針について
 3. 図書館評価について
 4. その他

■開会

事務局	<p>定刻になりましたので、平成 30 年度第 1 回の湖南省立図書館協議会を開催させていただきます。開会にあたり館長があいさつを申し上げます。</p>
館長	<p>こんにちは。この 4 月 1 日より館長を拝命いたしました井上でございます。本来ですと教育長あるいは教育部長がこちらにまいりましてごあいさつをさせていただき、皆様のご意見をお伺いするべきところではございますが、二人とも公務のため出席することができません。初めにそのことをお詫び申し上げます。本日 2 時間ほどではございますが、今年度第 1 回、通算しますと 5 回目の図書館協議会ということになります。図書館についていろいろなご意見を賜りたいと思っております。私自身は 8 年ぶりに図書館に戻ってまいりました。昭和 62 年、当時甲西町に入庁いたしました。図書館開設準備室で 2 年あまり、そこから甲西町立図書館、合併して湖南省立図書館と合計して 23 年間務めさせていただきました。その後生涯学習課に 2 年、健康福祉部に出まして子育て支援課担当での 6 年間を経まして、図書館に戻ってまいりました。8 年間ブランクがございますので、その前に 23 年間、図書館の仕事をさせていただいたとはいえ、まだ感覚が戻らないところがございます。4 月、5 月、6 月と 3 か月経ったわけではございますが、職員に助けられながら、当然市民の方々、図書館を利用してくださる方々等いろいろな方に助けていただきながら館長として運営に携わらせていただいております。</p> <p>今日は 2 時間という限られた時間でございますし、夜には大雨が降るような予報も出ておりますので、時間通りに終わらせていただけたらと思っております。ですので、事務局がご説明させていただくことにつきましては、なるべく簡潔にいたしまして、皆様のご意見を伺う時間を可能な限り取らせていただきたいと思います。事前に資料をお配りしておりますが、見にくいところがあったり、抜けているところ、修正が必要なところがあったり、またお渡しするのが遅かったため十分に目を通していただけていないところもあるかもしれませんが、忌憚のない意見をお伺いし、図書館のこれからの運営に生かしていきたいと思っておりますので、今日はどうぞよろしく申し上げます。ありがとうございました。</p>

事務局	<p>それでは、職員の紹介をさせていただきます。昨年度1年間、図書館協議会の委員を務めていただきましたが、夜間に会議を開催することが多かったため、職員が揃っていないこともございましたので、今更ではございますが、紹介をさせていただきます。カウンターに出ている職員もおりますので、交代でご紹介させていただきます。</p> <p>昨年も図書館協議会を担当させていただきました副館長の播口です。よろしくお願いいたします。</p> <p>甲西図書館奉仕係長をさせていただきます岡本です。よろしくお願いいたします。</p> <p>今年度から図書館協議会の事務局担当および庶務整理係長をさせていただきます福佐です。よろしくお願いいたします。</p> <p>奉仕担当で司書の原田です。昨年4月から甲西図書館で勤務しております。よろしくお願いいたします。</p> <p>同じく昨年4月から甲西図書館で勤務しております筧です。よろしくお願いいたします。</p> <p>今年4月から臨時職員として甲西図書館で勤務しております野村です。よろしくお願いいたします。</p> <p>庶務を担当しております伊藤です。よろしくお願いいたします。</p> <p>加納と申します。新刊図書の整備、雑誌の受け入れ、学校協力等を担当させていただいております。よろしくお願いいたします。</p> <p>今年4月から臨時職員として甲西図書館で勤務しております奥村です。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日欠席しておりますが、もうひとり庶務整理担当で、甲西図書館2年目の八尾がおります。甲西図書館の職員については以上です。石部図書館の職員につきましては全4回のうち、3回目を石部で開催する予定にしておりますので、そのときにご紹介させていただきます。</p> <p>図書館協議会議長・副議長は2年任期ということで、今年度も引き続き、議長を前田委員に、副議長を船越委員にお願いしたいと思っております。</p> <p>それでは、ここからの司会進行は前田議長にお願いします。</p>
議長	<p>改めまして、前田です。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。では、さっそく議事を進めさせていただきます。順番どおりにまいります。まず平成29年度市立図書館事業実績報告について、説明をお願いします。</p>
館長	<p>こちらについては私のほうからご説明させていただきます。平成29年度市立図書館事業実績報告(資料1)については事前にお配りさせていただいておりますし、できるだけ事務局から説明は簡潔にということもございますので、一点一点の説明は省略させていただいて、本日お配りした「サービス指標」と書かれた資料をご覧ください。これについての説明をもってこの部分の説明とさせていただきます。図書館につきましてはのちほど評価についてのお話もさせていただきますが、一般的なサービス指標として掲げられているものが、ここに書かれているものでございます。順次説明させていただきます。まず、湖南省には甲西図書館、石部図書館、移動図書館車がありますが、この3つで一年間に貸し出された図書、雑誌、CD等を合計した数が385,073冊(点)</p>

になります。また年間利用者数、これは延べ人数ということになりますので、一年間に延べ何人の方にご利用いただいたかということです。こちらが3つ合わせて、83,474人です。これが基本的な数字としてあります。3つめが「貸出密度」。これは、湖南省全体の人口一人当たりどれだけの貸出冊数になったかということです。平成29年4月1日現在の湖南省の人口を奉仕人口として分母に、貸出冊数を分子として計算したもので、1年間に一人当たり7.03冊貸出したということになります。登録率というのは奉仕人口を分母として、どれだけの方に登録していただいたかを分子とし100をかけてパーセントという形で表したものです。登録者数(実利用者)として一年間に1回でも使っていただいた方9,803人を奉仕人口54,789人で割って100をかけると17.89%となります。湖南省のなかでおおよそ18%くらいの方に使っていただいているということになります。次に実質貸出密度ですが、これは貸出冊数を登録者数で割ったもので、実際登録していただいている方、1回でも使っていただいた方が何冊借りられたかということになります。それが39.28冊おおよそ40冊ということになります。1回でも使っていただいた方について考えるとおひとり年間40冊ほど借りていただいているということになります。次に蔵書がどれくらい回転したかという指標が蔵書回転率です。分母が全蔵書冊数(甲西、石部、移動図書館車すべて合わせた蔵書数で、これは書庫のものも含まれます)354,015冊で、分子が貸出冊数385,073冊ですので単純に割りますとだいたい蔵書の回転が1.09回ということになります。次の人口一人当たりの資料費というのは、資料費という観点から人口一人当たりどのくらいの資料費があるのかという考え方ということになります。昨年度予算の資料購入費16,816,000円を奉仕人口で割った数字が306.9円になります。この資料費については、新聞・雑誌等のいわゆる消耗品と呼ばれるものは含まれません。あくまで図書および視聴覚資料等の「資料費」としての金額です。人口一人当たりの蔵書数ということになりますが、これも全蔵書冊数を奉仕人口で割ったもので、湖南省の人口一人当たり6.46冊の本を所蔵しているということになります。ここに掲げさせていただいたのが、図書館で一年間にどのようなサービスをさせていただいたかという指標の主なものになります。資料裏面は、これを行政効果として考えたものです。昨年度一年間に貸し出された本を仮に利用者が自費で購入して読んだとすると、総貸出冊数385,073冊に所蔵資料の受入価格の平均単価1,755円(16,816,000円/9,581点)を乗じて、総額は6億7580万3115円になります。ここから図書館を運営するための必要経費(人件費+物件費)1億5136万6000円(平成29年度当初予算)を差し引くと5億2443万7115円になり、人口一人当たり9,572円の還元益が上がったことになります。一世帯が仮に3人だとすると一世帯当たり3万円弱くらい返還させていただいているかなという図書館界では一般的な形でどのような行政効果があったかというときに使っている数字で、これだけの行政効果を生み出すことができたと思っています。これがサービス指標として評価的な言い方をすると資料費のようなインプットと貸出に関するようなアウトプットという形でどれだけの効果があったかという数字です。アウトカムについてはのちほど評価のところでお話できればと思っています。これでお手元の資料1の5ページくらいまで

を説明させていただいたということにさせていただきます。6ページの職員体制につきましては、さきほどご紹介させていただいた職員体制で対応しているということ、図書館協議会につきましては、よくご存じいただいていることと思います。それから協力事業ですが、学校・幼稚園・保育園に対してどのような形で対応させていただいたかということです。図書館見学、職場体験、協力貸出等を挙げています。また職員派遣につきましてはここに書かせていただいている通りです。その他事業のところでは乳幼児健診(4か月、10か月健診)に行っています。年間おおよそ500人前後の出生数があり、毎月40人前後生まれていると考えられ、湖南省の健診受診率95%を超えているので、4か月、10か月健診それぞれ40人くらい来られます。そこで読み聞かせやブックスタートに近い形で子どもさんと接して読書に親しんでいただくということを福祉と協力して行っています。雑誌スポンサー制度につきましては22年度からの継続ということでご存じいただいているかと思いますが、スポンサーになっていただけて提供させていただくということです。またよみかせ用図書につきましてはここに書かせていただいている形で11園にご利用いただき114セットの貸出をしています。以前ですと公立、民間ともにある程度決まった幼稚園・保育園・こども園という形でしたが、一昨年、昨年くらいから小規模保育のところも含めて民間の保育園が増えてまいりました。今後はそういうところにも声かけをして、本に親しむ機会を作っていきたいと思っております。それから秋の読書週間に合わせて読書に親しんでいただけるよう「秋の図書館祭り」として様々なイベントを行いました。これは今年度も継続する予定です。また市役所子育て支援事業との連携ということで「親子プレイステーション」を生涯学習課と子育て支援課が連携して実施しているなかで図書館については月1回土曜日の午前に開催しています。保護者の方と子どもさんが一緒に来ていただけて図書館でひとときを過ごしてもらおうという場を提供しています。読書推進講座につきましてはここに書かせていただいているとおりです。ボランティアにつきましては、おはなし会、人形劇、朗読、点訳等のボランティアの方々にいろいろな形でご協力いただいています。社会福祉協議会と協力し、ゾウのマークの手提げ袋を図書館で販売させていただいています。またこれ以外にも図書館ボランティアという形でいろいろな形で協力していただいています。集会行事につきましてはおはなし会、講演会等ここに書かせていただいている通りです。展示につきましては図書館独自のもの、市役所の他課と連携しているもの、市民の方と協力して作り上げるもの、県等の他の施設・機関と協力しているもの等2階の展示コーナーで開催しています。また石部につきましても、カウンター前の平台で展示をさせていただいています。人形劇につきましてはボランティアグループ「おにぎり村」に年間3回開催していただきました。その他の行事としてビブリオバトルを昨年度は2回、今年度も開催します。鉄道模型運転会も年一回開催で定着してきました。また資料のリサイクルにつきましては、雑誌・児童書等古くなったあるいは汚くなったというものでまだ使えるものについて市民の方にリサイクルという形で還元させていただいています。甲西については随時という形ではなくなっていますが、昨年度は随時という形でリサイクルコーナーを設け

て実施しました。またブックリストにつきましては、ここに書かれているとおり、小学生向け・ヤングアダルト向け合計3種類を夏休みに向けて作成・配布いたしました。今年度も同様に作成・配布する予定です。特設コーナーについてですが、図書館の本というのはNDCという分類に基づいて棚に入れなければならないので、特設コーナーを設けることで分類の制約から離れて本を探しやすくする、季節を感じられるもの、話題のものを集めて手に取りやすくするという観点で作っています。いまお話させていただいたのが実績報告ということになります。続けて資料2の説明をさせていただきます。平成30年度図書館の事業方針ということで、教育委員会の中で今年度どのような形で図書館が事業を進めていくのかということをもとめたものです。大きなところとして基本目標については、平成元年6月の開館以来一貫して掲げているものです。「暮らしの中に図書館を～誰もが気軽に親しめ、市民生活の中で役立つ図書館を目指します～」これを30年間掲げてきましたが、本当に市民の暮らしの中に図書館があるのかということとを毎年職員も考えてサービスしていかなければならないということとを肝に命じて、今年度もあえて基本目標としています。重点目標は3点ございます。貸出を中心として図書館の利用促進を図ります。市民のかたは、お忙しい中で図書館の中でしか使えないということではなく、貸出を通じて資料提供をさせていただくということが1点。2点目は集会行事です。図書や視聴覚資料という活字や音だけではない形で資料提供・情報提供をするという必要性のなかで展示や講座、講演会などの集会行事を通じて、文化情報の発信をしていきたいと思っています。これについては教育長からもここを重点的にやるようにという指示を受けております。展示といろいろなものを組み合わせるといったこともしていきたいと思っています。具体的なものとしましては、この日曜日に終わってしまいましたが、今年度湖南工業団地ができて50年になりますので、それを記念して振り返る展示をさせていただきました。そこで映画会社が撮った40分と20分の記録映画を土日に視聴覚室で上映しました。そういう形での情報提供および図書館所蔵の資料提供、学校の副読本(年代によって取り上げ方が違う)などを集めて提示することで親子の会話が始まったり、こんなふうになってきたのかということを確認していただいたりと複合的な形での資料提供・情報提供をしていきます。3点目は知的で魅力ある資料を収集し提供するとともに除籍計画に基づいて適切な除籍を進めます。これについては事前にお配りした資料の中で、昨年一年間で購入したものあるいは寄贈されて蔵書に加わったものと除籍という形で廃棄した資料がほぼ同じ数字になっております。年間9,500冊～10,000冊くらい購入し、10,000冊～10,000冊強くらい除籍していくというサイクルで、常にお客様にとって魅力的な蔵書構成を進めていくということを継続して進めていきたいと思っています。以上3点が重点目標です。資料の収集ですが、ここに書かれている通り石部図書館、甲西図書館でそれぞれございます。昨年度のサービス指標のなかで資料費があがっていましたが、今年度も昨年度と同様の資料費を確保しましたので、寄贈、雑誌から図書への移管も含めて10,000冊程度購入できるかと思えます。それがここに書かれているものですが、資料単価が前後することもあり得ますので、この数字は昨年度の

実績から見て若干多めになっております。また雑誌・新聞等の消耗品は資料費には含まれていないと申し上げましたが、こちらも昨年度と同額の手配を確保しておりますので、新聞・雑誌も寄贈も含め、昨年度と同様に提供していく予定です。またここにありますように行政資料・郷土資料を意欲的に収集・保存していきたいと思っておりますし、文化財担当と連携していろいろなこともしていきたいと思っております。また除籍につきましては、魅力ある蔵書を維持するためにということで進めております。また、リサイクルするものについては学校、幼稚園、保育園、こども園、子育て支援センター等の各施設および市民の皆様へリサイクルとして還元いたします。現在も1階・多目的会議室で雑誌のリサイクルをしておりますので、お時間ありましたらご覧ください。児童書につきましては夏休みに入ってすぐくらいに学校、幼稚園、保育園等に優先的に声かけをして残ったものについて市民の方に提供するという形で今年度もさせていただく予定です。雑誌については滋賀県全体で資料として継続的に保存していこうという機能があります。資料センターという形で瀬田にあります滋賀県立図書館が大きな書庫を持っておりますので、共同利用でそこが預かっています。なのでリサイクルに回さずに共同利用のために県立図書館に送っているものもあるということで、一緒にご説明させていただきました。次は利用促進ですが、ここに書かれているように貸出、予約ということをしています。具体的な数字は省略させていただきますが、資料1の前半の部分をご覧ください。児童サービスの充実ということで湖南市におきましては「子ども読書活動推進計画」というのを5年計画で持っております。図書館では「子どもの読書についてはこういう機能・役割を果たす」ということが書かれておりますので、それに基づきまして、小さいお子さんから18歳までの図書館の利用推進を図っているところです。ブックスタート・はじめての本との出会いということにつきましては先ほどご説明させていただいたところがございます。また学校教育および学校図書館との連携ということで先ほどは省略させていただきましたが、石部図書館に二人、学校教育課との兼務の職員がおりまして、学校図書館についての業務を一緒に進めております。それから高齢のかた、障がいをお持ちのかた、母語が日本語以外のかたにつきましては、図書館の利用にある意味障害のあるかたに対しても、しっかりとしたサービスをしていくということでこちらにあげております。大活字本や高齢のかたが利用しやすい資料を提供していきます。障がいのある方にはボランティアのところで紹介しましたがいろいろな形で資料を作成していただき、提供しています。また外国人の方につきましても、多文化サービスとしてそれぞれの母語のアイデンティティに沿うように韓国語、中国語、英語、スペイン語、ポルトガル語と限られた資料数ではありますが、集めております。十分な数ではありませんが、今年度も資料提供をし、PRを進めたいと思っております。集会行事につきましては先ほどご説明させていただいたところがございます。ボランティアにつきましては図書館の機能、とくにいろいろな個人情報をもっているということで、今年度はボランティアを養成する研修会を開催し、現在7人のかたが受講していただきました。今後はそのかたたちに対してどのような形でボランティアをしていけるかということをご提案しなが

	<p>ら、登録制度を用いて「こういうボランティアがありますが、やっていただけますか」という声かけをやっていきたいと思っております。図書館協議会は市民に育てていただく図書館ということで図書館協議会の活動を尊重しながら、いろいろなご意見を伺って図書館活動を進めていきたいと思っております。また市役所各部署との連携も進めていきたいと思っております。また「暮らしの中に図書館を」と申し上げましたが、市民の課題にいかに対応したサービスができるかということが基本でございますので、その充実に努めたいと思っております。また、雑誌スポンサーということで書かれています、民間のいろいろな活力を活用するというのも従来通り進めていきたいと思っております。また今後の課題としてどういう形でこれからの図書館を運営していくのか、それをどう評価するのかということも含めて考えていかなければならないということで最後に書かせていただいております。長くなりましたが資料1および資料2の説明とさせていただきます。皆様のご意見をお伺いしたいと思いますので、よろしく申し上げます。</p>
議長	<p>ありがとうございました。それでは次の「評価」に行く前に皆様のご意見を伺いたいと思います。29年度の事業報告と今年度の事業方針についてお話しいただければと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>議論に入る前にひとつ教えていただきたい。3月の議会だよりに「図書館の今後の在り方について」という質問があって、それに対する市長の回答が(議事録をすべて見たわけではないが)「図書館はこの場所、この建物でそのまま存続します」というものだったと思うが、昨年この場でいろいろと「どうなるのか」という話もしていたので、結果として甲西図書館はそのまま存続ということでよいのでしょうか。市長がそういう回答を本当にされたのか教えていただきたい。</p>
議長	<p>この場に教育長がおいでになりませんが、そのへんのところはいかがでしょうか。</p>
館長	<p>3月の時点では、私も子ども家庭局の次長という立場でその場におりました。細かく言えば3名の議員さんからご質問をいただき、市長が回答をさせていただきました。議会だよりに、かなりコンパクトにまとめられていますので、そこが読み取りにくいと思いますが、東庁舎につきましては、建て替えをすることで進んでいます。以前は「図書館は新しい庁舎の中に入れて、この場所はつぶす」ということで動いていたのは事実です。ただ、今の段階では「新しい東庁舎には、図書館は入らない」ということで、甲西図書館については今あるこの場所で業務を続けられるように進めていきたい。ただ、ここの土地が昭和63年に建設されてから30年間ずっと借地という契約でした。それが昨年の11月までで切れておりまして、1年間だけ延長で平成30年11月まで残っております。この土地が市有地と2人のかたの私有地を借地しているという状況ですので、借地の部分を買って市有地としたうえで、ここで続けていくということが前提になります。市長もそこらへんのところで言いよんだところがあるかと思いますが、今まさに交渉中ですので、その点をご考慮いただいて、説明についてはご勘弁いただきたいという回答をさせていただいているところで、議会に対</p>

	<p>しても、再度そういう説明をしているところです。ですので、方向としましては「甲西図書館は、現在のこの場所で継続的に業務を行うべく、借地の件について交渉にあたっているということをご理解いただきたい。</p>
議長	<p>では、そういうことも踏まえ、甲西図書館は現在のこの場所で図書館運営を続けていくということを前提に皆さんのお話を伺っていきたいと思っておりますので、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>資料 1 のところで「サービス指標」というプリントをもとにご説明くださったが、たとえば 28 年度と比較をすると、貸出冊数とか貸出人数とか前年度の数字を下回る傾向にあるのかと思うが、その原因をどのように分析されているのか。それが湖南省市だけの問題なのか、たとえば県内のほかの市町と比較したときに、ほかにも減少傾向なのか、湖南省市だけが減少しているのかそのあたりを教えていただきたいのが一点。もう一点は 30 年度の事業方針について、館長の熱意溢れる説明だったと思いますが、昨年度と変わったところはどこですか。</p>
委員	<p>それに関連して、いま利用者数の話がありましたが、私も調べてみましたが、過去 5 年間見ても 28 年度から 29 年度の落ち込みが一番大きいです。昨年度もこの話をしていますが、そこはどうか考えるのかが気になります。登録者数、貸出冊数、貸出人数についても 28 年度から 29 年度の落ち込みが、数字として一番大きいので気になります。ただ昨年、県の図書館協議会に出席したときにどこの市町も、やはり減っているということで悩んでおられて、これが原因だろうという決定的なものはでていなかったということをご報告しておきます。それともう一点気になったのが、事業方針について昨年度と全く同じ書きようです。館長がおっしゃったように図書館運営の基本的なところについては、ころころ変えるものではないのでいいと思いますが、あとの展開も少し数字を入れ替えているだけで、全く同じです。そういう意味では「どこが違うのか」という話が出てくるのだと思うのですが、たとえば一例をあげますと児童サービスの充実という問題について、あるいは利用促進という問題について、利用促進で移動図書館車「マツゾウくん」を活用して云々ということになっているわけですが、ご承知の通り 29 年度は保育園・こども園から撤退されたというか、行かなくなったわけで、変わってきているあたりをとらまえて今後どう考えていくのか。今年度は小学校 9 校も巡回しないと聞いていますので、違ってきているところがあるにも関わらず、このままの表現でいいのかというところが気になります。先ほどの「児童サービスの充実」についても、たしかに「子ども読書活動推進計画」ということでいろいろ頑張っておられるのは分かると同時に「マツゾウくん」の巡回がなくなったことによって昨年度の数字を見ても一校あたり 1,000 冊ほど貸出があったのが、少なくとも、こども園の数だけは少なくなっているとか、今年は小学校の分 10,000 冊近く減ってるとか、そういう状況が出てくるので、児童サービスの充実についても、たとえばそれはそうだけれども「子ども読書活動推進計画」のなかでどう頑張るとかわかるようにしていただけると計画としてもわかりやすいのかなと思います。</p>
議長	<p>ありがとうございます。では回答をお願いします。心当たりや原因など。</p>

館長

抜けているところがあれば、あとで再度確認していただけたらと思いますが、一つは利用のことについて、でございます。具体的な数字は、湖南省についてはお手元の資料に平成29年度一年間をまとめたものがございますが、県内については速報値、全国については、日本図書館協会が調査をしたものが通常ですと7月末から8月初めくらいに図書館年鑑というのを出すのですが、そこに具体的な数字が出てきます。全国の平成29年度の数字と比べてどうかというのは、現時点では難しいのですが、県内あるいは大まかなところということでお話をさせていただきます。まず県内ですと、増えているところと減っているところ両方ございます。全国という規模で見ますと、2年くらい前までは貸出は伸びてきていますが、2年前くらいに頭打ちになっています。去年および今年あたりで、その数字が戻っているのか、頭打ちのままなのか、坂を落ちだしているのか見えてくる頃でないかと思います。なので、これが全国共通の傾向なのかということについては、まだお答えしかねるというのが、今の日本の図書館の現状です。これは市町村立図書館の問題についてです。県内でも同規模人口、例えば野洲市あるいは高島市というような5万～6万、日本図書館協会が指標を出す場合、人口規模でだいたい分けているのですが、市の場合、3万～4万、5万～6万、8万、10万となります。湖南省の場合は5万～6万というところに入るのですが、野洲市あるいは高島市がほぼ同じ規模になります。非常に言いにくいのですが、高島市あるいは野洲市は人口一人当たりという数字で申し上げますと12冊前後の数字を出しています。ですからアウトプットという意味では(インプットは分かりませんが)単純に比較しますと、かなりの差がついています。湖南省については、10年前と比べてもずっと落ちています。一番高かった頃は人口一人当たり12冊とか、50万冊に手が届くような貸出冊数でした。貸出冊数だけがすべてではありませんし、貸出冊数はあくまで結果であって目標ではありませんが、そういう数字を出していたのは事実ですし、そういう意味では落ちています。一般論で、しかも学者の分析ですのですべてに当てはまるわけではないのですが、今回貸出が落ちているところの原因を図書館界で学者がいうところでは「職員の減少」「資料費の減少」というふうに分析しています。いままでずっと図書館が順番にできてきました。市立図書館については市町村合併があったということもありますが、設置率が98%を超えたと思います。ほぼすべての市に図書館があるといってもいい現状になってきています。でもそれはずっと増えてきたということもあり、図書館が充実してきたということと、それに伴って資料費も増えてきた、職員も投入されてきた、近いところに図書館ができてきたところの中で、図書館の貸出が増えてきたというところがあったと思うのですが、これも一般的な議論ではありますが、資料費が落ちて、その影響が出るのがだいたい2～3年後、場合によっては5年後と言われているので、それが出てきたのかというのが今の段階の分析です。これがそのまま、資料費も落ちていっていますのでそれと一緒に落ちていけばそれが原因ということですし、止まったり上向きになったりすれば違う要素が原因として考えられるということもあり得ます。湖南省の場合につきましても、資料費が落ちているというのは事実ですし、職員につきましても若干減ってきているということと、

司書職ではない職員もいます。司書職でない職員が悪いわけではありませんし、頑張ってくれていますが、あくまで一般論ですが、それが影響しているのかと言われてます。では、どうやってパフォーマンスを出すのかということですが、インプットの部分でどうしようもないところをアウトプットでどう出していくのか、アウトカムとして利用者の顧客満足度を上げていくのかということになってくるわけですが、一つは、私一人がここに来たからと言って変わるわけではありません。ですが、私が出てから、行政職の館長が悪いわけではないということが前提ですが、行政職の館長が8年間の間に短い館長は3ヶ月、長い館長でも2年という形で6人館長が参りました。そういう中で、専門職の職員が十分にパフォーマンスできていなかったということがあるのかなと思います。私も子育て支援課に6年間いましたが、保育士の現場で本当に頑張っていることの評価をどう考えるかという時に行政の一般的な評価基準をそのまま当てはめて専門職としての評価をするのはやはり難しい。できないことはないのですが、その場で求められるのは、専門職としてどれだけのパフォーマンスが出せるかということ。そのことについて一生懸命専門職としてやっていることをどう評価するかということになると、十分な評価ができていたかといえばできていなかったらうと思われまます。同じことが図書館の現場についても言えるのではないかと思われまます。当然行政の目でそれなりに長い期間仕事をしてきたわけで、そういう見方で職員を評価し、指導し、進めていったということがこの8年間であったのではないかと思うのですが、その中で自分たちのパフォーマンスが評価としては充分にしてもらえなかったのではないかという不安、してもらえないのではないかという不安がなかったかというのはわからないなというふうに思っています。なので、司書職の職員には「市民のかたが求めているのは、図書館が図書館としてどのようなサービスができるのかということなので、司書職として今までの経験を踏まえて思い切り仕事をしてください」と伝えました。「その結果を市民のかたがどうとらえるのかは、あくまで結果。少なくともその部分は自信をもって仕事をしてください」と伝えました。そのなかでどれだけのパフォーマンスが職員集団としてできるのかということが問われていく。館長が司書職で戻ってきても「何も変わらないじゃないか」ということになれば、どうしようもないし、職員に頑張ってもらわないといけないのですが、変わるとしたらそこかなというふうに思っています。ただ、この文面については「変わっていない」というのは事実ですが、中身についてはしっかりと見直して、たとえば「子どもの読書」であれば4年目と申し上げましたが、来年は改定年になります。私自身は現場にいませんでしたのでわかりませんが、昨年度中間年として、どれだけの見直しをされたのか詳しくは存じ上げませんが、見直しをかけたうえで残り2年間でどうするのかということは審議・協議をしたうえで今年、来年やっていると思いますので、その部分はしっかりと受けてやらせていただきたいと思います。それから移動図書館車については、先日も教育長と話をさせていただきました。私が8年前にいたときには、小学校、保育園を巡回という形でのサービス提供をしていました。ただ、車がかなり厳しい状態で運営しているのは事実ですし、ここ10年ほどの間に学校図書館法の改正

	<p>等もございましたので、各小学校・中学校に学校図書館司書が配置されておりますし、ほかの市町村と比べても勤務日数および時間に遜色がないと聞いております。途中で変わられたかたもおられますが、いろいろな形で経験を積まれて、先生方もそのなかで本の使い方、図書館の使い方、あり方というものを勉強してこられた。そしてそれを授業のなかに生かすということについても研究授業等を繰り返すことによっていろいろなノウハウを学んでこられたということがあり、学校図書館や先生方の充実がある程度図られたなかで学校に行くという選択肢、それを残すという選択肢もありますが、資源・時間を有効に使うという形で見直すということをしていいのではないかなというなかで、学校については巡回をやめたと教育長から説明を受けました。逆に地域にどれだけ出ていけるのか。図書館は、湖南省にいま2館しかありません。一般的には、半径1.5キロ～2キロくらいがサービスエリアだと言われています。それは徒歩ないしは自転車を前提としています。それ以外のところでは図書館には日常的には来られないということになります。湖南省の図書館も平日は600～700冊、土日は2000冊前後の貸出というところで推移しています。土日に車で来館していただく、土日中心の利用というスタイルです。そのなかで、日常どれだけ全域サービスができるかというなかで移動図書館車をどう活用するかということを考えてくれという指示を受けました。保育園、幼稚園、こども園、民間の施設が増えていますが、そこで読書についての十分なサービスができる状態ではないのではないかなということ(これは推測ですが)そういうところも含めてどのようなサービスができるのかということを検討していきたいと思っています。ただ今年度については、土日を中心に進めていくということですので、その結果パフォーマンスがどれくらい出るのか、アウトプットとしてどれくらいのもが出てくるのか、あるいはアウトカムがどの程度のものかということ进行分析したうえで、来年度以降の展開については考えていかなければならないということは当然のこととして視野にはおさめております。具体的には石部南まちづくりセンターに月に一回行っております。「こども食堂」をやっておられる時間なので1時間ほど停まっておりますが、それなりの利用をいただいております。移動図書館車の「マツゾウくん」が出ていって目の前にあるということのインパクトはやはり強いので、その資源をいかに有効に使っていくのかということも考えていかなければならない。ただ「マツゾウくん」が行って、そこに車だけ置いておけばいいというわけにはいかない。当然職員もいて準備も後始末もしていかなければならないというなかで、人的資源もどれだけ有効に使うか。逆にそこに行っている間は図書館でやる仕事ができないということになりますので、そこらへんのバランスを考えたいうえで、「あれもこれも」はできない、「あれかこれか」というなかでどのようなサービスをしていくかということも考えていかなければならないと思っています。</p>
委員	<p>丁寧にお答えいただきありがたいが、私自身は井上館長が戻ってこられたから、「館長が変わったからどう変わるというものでもない」とはおっしゃったけれど、期待するものはとても大きいです。だから、野暮な質問をしたのですが、事業方針が全く変わっていないというのが、ある意味残念だと思ったのですが、ここは「井上色」</p>

	<p>が出るようなものを出していただけるとありがたいなと思います。それから、「マツゾウくん」のことにしても、これから湖南省を背負っていく、ここに魅力を感じて長く住んでいこうという人、子どもを育てていこうとすれば、ほかの市町にはない湖南省立図書館の良さ、それが「マツゾウくん」だと思うのですが、それをどんどん発信していくべきだと思います。「井上色」の一つとして、「マツゾウくん」の復活というかもっと新しい「マツゾウくん」のスタイルというものを企画していただけるとありがたいなと思います。ただ、非常に申し訳ないのですが、他のかたにもできるだけいろいろな意見を言うていただくほうがいいと思うので、答えを簡潔にお願いします。</p>
館長	<p>分かりました。</p>
議長	<p>ありがとうございます。移動図書館については、昨年度も議題にあがりましていろいろなご意見をいただいたのですが、それについてせっかくの会議で出た意見が反映されているのかどうかというのがよくわからないのですが、いま小野田委員がおっしゃっていただいたように、現在の図書館をご覧になったご感想でも、今までご説明いただいたことへのご質問でも結構ですのでご意見をいただければと思います。</p>
委員	<p>私この後用がありまして、退席させていただきます。事業実績報告の中にはなかったのですが、前年度の3月に一週間、図書館が図書整理で休館の時に声をかけていただいて、私は障がい分野から来ていますが、なかには引きこもりのかたの支援もしていきまして、なかなか外に出られない、働いていないことへの負い目でなかなか人と交わることが難しいというかたがいて、そのかたたちに声をかけて5人のかたがボランティアという形でここに来させていただいた。一人のかたはまったく外に出ていなかったが「初めて手帳に予定を書いた」と、親御さんもすごく喜んでおられた。ご本人も「そのことができて嬉しかった。いい仕事だった」とおっしゃっていた。ほかにも行ってみたいという方がおられたが、日程とか内容の折り合いがつかなくて5人ということになったが、彼らにとっては意味があったと思います。私がたまたま図書館協議会の委員で会議に出たからそういう話があったが、できればバックヤードであまり人と出会わなくてもお手伝いできるようなことがあると、働けなくても社会参加ができるとか、なかには図書館が居場所になっているとか、逃げ込む場所になっている方もいるので、そういう意味で図書館の持っている役割というのはいろいろあるかと思えます。貸出冊数とかそういうこと以外に嬉しかったこととか、良かったことがあったということを上手にとらまえて図書館として、市民に向けて発信していくことが大事なことだと思います。子どもたちのなかには、学校には行けないけれどそういうことがあればやりたいと思う子もいると思うし、そういう時に図書館に逃げ込んでもいいのだということを知ってもらうことも大事だと思います。比較ということも大事だが比較できないことの実事も発信するということがお願いしたい。またボランティアということのできるものがあれば、情報をいただいて参加させていただきたいと思えます。</p>
館長	<p>具体的にそういうことができましたら、お話しさせていただきたいと思えます。ボランティアとして、おはなし会をさせていただくかたとか、養成講座を受けていただ</p>

	いたサポーターとは別に考えさせていただこうと思いますので、よろしくお願ひします。
議長	図書館でもそういう方の力も活用していただければと思います。
委員	<p>国際協会から来ています。今まで協議会とかいろいろ出させていただいて、質問もありましたが、図書館の場所がどうなったとかいろいろありましたが、私は今までシステム的なことを仕事にしております、会があったらそれに対していつ決定したのか、経過がどうか、それを表にしていくような仕事をずっとしていたが、この協議会の結論がなかなか見えない。どうだったのかと聞かれたが、私も広報を見て確かに載ってましたし、議会も聞いていましたから、「ああ、そうなんか」となったんですが、この中での共有というのが欲しいなと思いました。「マツゾウくん」の件にしても館長さんがこう思っているということと、いま、こういう状況だとか決定とか確定というのは、議会だとか決算だとかいろいろあるので出しにくいとは思いますが、確定じゃないよということも含めて、ある程度出してもらえればいいなと思います。それと一番下に今後の課題と書いていただいている、「第三次湖南省行政改革大綱に対していろいろ検討する」とあるが、そもそも骨組みが我々には全然わかっていない。大綱に対して、図書館がどうするのか。その中で貸出冊数が多いほうがいいのかとか、利用者は多いほうがいいのかとか、今日の新聞にも「図書館で自習するのはダメ」と書いてあるのを見て「ああ、そうなんか」と思うくらいなので、図書館自体が違う方向へ変わっていかないと、いつまでも20～30年前の貸出冊数等に頼っていてもしょうがないのでは。それよりももっと地域との関わりと書いてあるが、たとえば中央のこの近所の人のなかでどれくらい使っているのかとか地元の住民の関わりとこののを分析すると面白いのではないかと思うのですが。それと「理由」という意味で2～3年くらい前にこの場所で「英語でお茶べりというのがあるのですが、やらせてもらえませんか」と言ったが認めてもらえなかった。「空いているのになんで？」と思ったが、新しい庁舎に統合したらという話があった時に、みんなが行ってがやがやと入れるような場所があったらいいのと思ったのですが、オープンスペース的な開かれた場所や、やろうとしているイベントが重要視しているのが、外国人の保護者が学校生活とかで困らないように、日本語をちょっと覚えるとかお弁当の作り方を覚えるとか学校からくる通知が見たらわかるとか生活の感じに重点を置いてやろうかなとしているのですが、そういうこともこの場所でやると、また見方が変わってくるのかなと。我々みたいな人もいっぱいいますから、そういう人のノウハウも連携できるようなところがあるのではないかと思うのですが、ここに「他部署との連携」とあるが、知恵を出し合って集まるような工夫ができないかと思います。</p>
館長	<p>いまおっしゃっていただいたことで、お答えできるものについてお答えさせていただきます。一つは地域の数値の分析ということですが、利用統計のなかに利用カードに登録された住所によって地域ごとの統計は出すことができます。また年齢別の統計も出すことができますので、そこからどういうところが減っているのか、どこに原因があるのかということ进行分析したいと思っています。今日具体的な数字がご提示できなかったのですが、そこ</p>

	<p>はしたいと思っています。それから図書館の利用についてですが、私は基本的には「最初からダメ」ということにはないようになりたいと思っています。なので、ダメなのであればどうしたらできるのかということ話し合いたいと思います。ただ、図書館の機能、今の施設の限界はありますので、この図書館の中でどうすればできるのかという形の話合いになるのはご理解いただきたいと思います。具体的に「こういうことがしたいんだ」というお話があれば、考えていきたいと思っています。</p>
委員	<p>ここに集まれる口実を作るようなイベントができればと思います。そうすれば、ここに気軽に来られるとか、利用につながるということにもなるのかなと思います。</p>
館長	<p>ひとつひとつ具体的な話として進めさせていただきたいので、そういうことがあれば、お声かけください。</p>
委員	<p>私が去年から言っていたのは、「マツゾウくん」についてなのですが、いま館長が答えていただいたように、前向きに、現状を見ながらどこまでやっていけるかをちゃんと考えているとお答えいただいたと思っているので、ある意味「頑張ってもらえるかな」と思っています。あとひとつ私が思うのは、絵本の貸出をたくさんしてもらっていますが、絵本の内容について、子どもはパッと見て「かわいい」とか「色がきれい」とかで手に取っているし、保護者にしても「子どもが喜ぶから」で選んでいて、本当に「この本がいい本かどうか」という吟味が図書館でできているのかどうか。図書館の本を見ている、「なんでこの本が？」ということがあります。長谷川義史とか「だるまさんが」など保護者は喜ぶし、保育園でも置かれているが、不思議ではない。たくさん借りられているとは思いますが、「いい本を選ぶ目」も持ってほしい。「なぜこの本がないのか」という本は自分が園長の時には増やしたが、他の園では「なんで、こんな本がこんなにあるの？」ということも多い。園への貸出の際には、指導的な立場で「この本はここがいい」とか「こんな本がいいよ」というようなことを声かけしてもらえたら、先生たちにも気づきになるし、いい本を選ぶ目を育てることになると思うので、その辺を考えてもらえたらと思います。</p>
館長	<p>選書とか蔵書構成をどうしていくのかということは、いろいろな考え方があると思います。図書館の職員あるいはそういうことに興味をお持ちのかたが見れば、誰もが「これはいい本」というラインがあるが、そのラインからちょっとはずれるというか、どこまでを「いい」とするのか、そこについては、ここで選書議論をするのもどうかと思いますし、難しいところがあると思います。ですから「こういう本であるべきだ」というお考えがあるのは理解できますし、そういう議論があるのも事実ですが、そこと図書館の蔵書構成の中ではなかなか難しいところがあるというのをご理解いただきたいのと、それが一般書になれば、もっと広がります。いろいろな見方、考え方がありますので、多様な意見・考え方をある程度見ながら選書していかなければならないということをご理解いただきたいと思っています。児童書についても「選ぶ本」ということで図書館が選んだものもありますし、そもそもの形として絵本については、棚に並べているものと表紙見せしているものがあるわけで、子どもさんに選んでほしい。子どもさんは表紙を見せているところから選びます。背だけでは何もわかりませんから。棚、特に児童書であれば、絵本架をどう構成していくのかということについては、職</p>

	<p>員の力がストレートに見えてくるところになってくるかなと思います。それはそういうご意見をいただいたということを職員にも伝えて、肝に銘じたいと思います。</p>
委員	<p>さきほどおっしゃっていただいたように、たとえば、私も保育園にいましたが、保育園の子どもたちがどう育っていくか、保育園・幼稚園を卒園したから、この子はここまでのレベルになった、こういうことができるようになったとすぐ見えるものと、全然見えないもの、その子が大人になってやっとわかるものもあり、そこが大事なところだと思います。図書館も同じだと思いますが、目に見えないところを担っていかなくてははいけない。これから湖南省を担っていく子どもたちにたくさん本を読んでほしいし、いろいろなことを知ってほしい。いろいろな視点や人との関係もあるなかで、よい本をいかに選ぶかは大人の責任で、図書館の責任でもあると思うし、そここのところをみんなで考えていければと思います。</p>
議長	<p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>僕も教育部のなかの人間なので、事業方針に向けての意見は言いにくいんです。自分が今、おおむね 15 歳から 20 歳までの子どもたちを見ている立場のなかで、運用面でこのように考えていただけたらいいなということで発言をします。昨年度いちばん最初に教育長が見せてくださったパンフレットの中に、高校生が笑顔で図書館にいる、そういう図書館を作っていこうみたいなものがあつたんですが、先ほどもご意見がありました、そういうスポット、スポットの子どもたちなり、人たちが輝けるものをサービスの中に入れていただけると、また貸出冊数、いちばん低い若者たちの冊数が増えてくるのではないかなと思っています。さきほど高島の話もありましたが、ひょっとしたら、湖南省と同じ人口であっても、若者世代の層が少し違うのかもしれない。湖南省のほうが少し厚いのではないかと、それが貸出数にも影響しているということが、ひょっとしたら考えられるのではないかと考えています。だから、そういう層の子どもたちが、ここで活躍できるというようなことも、貸出冊数を伸ばすためのひとつの工夫なのかなと思います。ある中学校では、高校とタイアップして高校から帰ってくる駅の時間待ちの間に、ちょっと子どもたちを教えてくれないかという取り組みをされています。逆に、ここも駅に近いという利点を活かして、帰るまでの時間待ちに「来て本を読まないか」ではダメなので、「ちょっとボランティアしてみませんか」とちょっとひっかかるような投げかけを、高校とタイアップをしてやってみるというのもひとつの方法かなと思います。その層の子どもたちが、地域に「居場所がある」というのは、とても大事で、居場所をたくさん作ってやることで、子供たちが育っていくというふうに考えておりますので、貸出冊数のアップと居場所づくりという面からも工夫して考えていただけるとありがたいです。</p>
館長	<p>ありがとうございます。時間があまりないので、別にお話をさせていただこうと思っていたところがいくつかあつたのですが、いまおっしゃっていただいたなかで、それに関わることがありますので、少しだけそれに加えてお話させてください。いまおっしゃっていただいたような形、端的に言いますと「まちづくり」あるいは「ひとづくり」にどれだけ図書館が関わっていくのかというような視点から図書館のこれから</p>

	<p>を考えていこう、図書館のあるべき姿を考えていこうという動きが、図書館界全体のなかに一つの潮流として、あるというのは事実です。ただ、そういうような形が図書館の本来のありかたになるのだろうかという考え方も一方ではあります。なので、そこらへんのところをどうしていくのかというのは、ひとつ議論にはなっているところです。もうひとつあるのが、これは文部科学行政の話なんです、文科省が今年度大きく機構改革をします。ずっと昔で言えば、文科省というのは、文部省と科学技術省が別だったんですが、文部省の時代(20年ほど前ですが)、生涯学習政策局ができましたが、その前は初等中等局が筆頭局だったわけです。小学校中学校という義務教育をやっていくというのが、文部省の牙城であったのが、生涯学習が大事だということで生涯学習局、生涯学習政策局が筆頭局になった。ただ今回の改革で、それがなくなって図書館で言えば、生涯学習政策局の社会教育課が担当だったところが、学校図書館と公共図書館をいっしょくたにして、生涯学習や社会教育という言葉をなくした局が筆頭局になって進めていこうということで決定されている。5月段階で文科省のホームページにある程度の情報が載っているのですが、ほんとに詳しいところはないんです。説明もないので、最後どうなるのかが見えないのですが、そういうなかで考えられるのは、学校教育だけは守ろうとしているのではないかとされています。そういったなかで公共図書館というのがどういう役割をしていくのかということは考えなければならないのかなと思っているのと、博物館というのは市長部局にいてるところが多いです。実際、県でも文化・芸術振興はもう知事部局です。社会教育全般がそういう方向に流れる可能性がある。文化財保護法で、文化財の保護よりも活用に注目をしていくということにも表れているように、そういった流れのなかで社会教育とは何か、図書館とは何かということを考えながら、どのような形で図書館サービスをこれからやっていくのかということが問われているのかなというのが、新聞のなかにも一部出ていたかと思うのですが、今の文部科学行政のなかで注目すべきことかなと思っています。次回は秋にお話をさせていただこうかと思っているのですが、その時点では、もう少しそこら辺のことがお話しできるかなと思っています。</p>
委員	<p>時間もないところで申し訳ありませんがひとつだけ、いま館長の話のなかで、図書館をどう見るかということで、いちばん最初にサービス指標ということでご説明いただいて、わかりやすい資料を提供していただいたと思うのですが、同時に合併後の貸出等の数字を見ると、すごく落ちている状況でこれだけを見て図書館を評価していいのかなと思います。なかなか原因も難しいし、たとえば図書館に来て、いろいろな展示で、芥川賞のノミネートされた段階で展示があつて「誰が取るのかな」と楽しませてもらったし、季節にあったものをしているとか、そういう活動も含めて、図書館の活動のありかたを見る方法はないのかなと、よくわからないけれどそう思います。</p>
議長	<p>ありがとうございます。では、3番目の図書館評価にまいりますので、ご説明お願いします。</p>
館長	<p>きょうお渡しさせていただきました事業評価シートというものが二つあるかと思えます。こちらにつきましては平成29年度、平成30年度ということで配らせていただ</p>

	<p>きました。29年度については、先ほどからご説明させていただいているところですので、はしょらせていただきます。30年度1ページ目の1、2、3、4とある、4の箱の実施事業の二つ目、電子図書館サービスの推進と書かせていただいています。これについては今まで全然話をさせていただいていなかったもので、簡単にご説明させていただきます。電子図書館というのは、キンドルやamazonなどいろいろな話が出ているのは皆様ご存じのとおりです。流れとしては紙媒体、あるいは電子媒体というものが併存していくことは充分考えられます。ただ、電子媒体というのは全く実体のないもの、昔ですとパッケージ系といわれるような、たとえばCD-ROMのような物がありました。今はネット系と呼ばれるようなインターネットを通じて情報を取っている、本当に形も何もないものというようなことで進んでいるのが実態です。そのなかで、ここにも書かせていただいているように、電子情報への対応ということで電子図書館というのを入れていくのですが、これについては権利というもののなので、先ほどお話しした資料費というなかには入っていません。どういう形でのサービスができるのかということで、実際はまだ手探りです。ただ、手探りのなかでやっているの、そういう方向で進めていこうというのが、なかなか進んでいかない。団体のほうから補助金をいただく形で湖南省立図書館についてもサービスを開始してみようということでございます。秋ごろには具体的に「こういうサービスができますよ」ということをご提示できるかなと思っております。そういうことについて次回には具体的なお話をさせていただけるかなと思っております。今このことについては、準備中ということでございますので、今年度電子図書館サービスが始まるということをお話しさせていただきます。</p>
副館長	<p>いま申し上げた通り、図書館でも活用を図ろうとすると、まだまだこれからのところとある中で、助成金を使って電子図書館を活用していきたいということで取り組んでいくということになります。一般的に想像される電子書籍と図書館で扱えるコンテンツが全く違って、提供されるコンテンツも少ないですし、いわゆるベストセラー的なものも提供してもらえないので、その中でどのような活用をしていくか、もう一つは市販のコンテンツを使った情報提供をするだけでなく、市で作られているような資料とか、地域で埋もれているような資料(著作権はクリアしたものになりますが)を提供していくということを考えています。それですと湖南省以外のかたにも提供できますので、また資料をお持ちで、提供していただけるようなものがありましたら、図書館から情報発信していこうと考えております。そちらも大きい柱として考えておりますので、ぜひ皆様からもいろいろな工夫をお聞かせいただけたらと思っておりますので、よろしくお祈りします。</p>
事務局	<p>評価については、先程からいろいろなお話をさせていただいたなかで、ご説明をさせていただいたと思っております。時間も限られていますので、なにかございましたらよろしくお祈りします。</p>
委員	<p>ひとつ教えていただきたいのですが、資料4の表の最初にある「平成30年度の目標」ですが、1ページ目の数字と2ページ目の数字が違うのはどうしてでしょうか？</p>

	たとえば蔵書数だと1ページ目は354,500冊だが、2ページ目は343,300冊になっていますが、この違いは何でしょうか？
事務局	すみません。ミスプリントです。一部修正をかけたところが修正できていなかったということです。1ページ目が正しい数字です。それでもおおよそ10,000冊くらい除籍をしなければなりません。
委員	もう一つだけ除籍のことで教えてください。リサイクルコーナーがあるのはうれしくて、活用させてもらっています。いまは昔の本が絶版になるのが早くて、手に入れようと思うと高額になっていたりするので、図書館で借りられるのはありがたいです。除籍にはいろいろな基準があると思いますが、図書館ではそういうことも充分考慮していただけるとありがたいです。
事務局	いまのことについて簡単にお話させてください。先ほど雑誌について、共同利用ということで県立図書館の話をさせていただきましたが、本も同様です。たとえば旅行書とか法律書の古いものは保存しませんが、読み物などは県立図書館にない本かどうか調べます。ない本については、「できれば、これは県立図書館で保存してほしい」と頼みます。最終的にそれを受け入れるかどうかは県立図書館の判断になりますが、そういう形で必ず確認はしています。
委員	資料3の「図書館協議会からの意見」というのが3ページや7ページにあります。これは今日完成させようということなののでしょうか？次回でもいいのでしょうか？
事務局	一般的には、2年間の任期のなかでどのようなことを図書館協議会でご協議いただくのかということを決めて、そのことについて2年間6回なり7回なり審議いただいて最終回に結果を出していただくということになるのですが、去年についてはいろいろな話をお伺いして、「マツゾウくん」の話も出ていたということは聞いておりますが、残り2回なり3回なりのなかでどのようなことをしていただくのがいいのかというなかで、いまの湖南市の図書館についてどうお考えなのかをまとめていただくのもひとつのあり方だろうということで、あげさせていただきました。少し時間があれば、ここでこの部分を協議・議論できたらと思っておりましたが、時間的に難しいので、そこをどう考えるのか。ここに資料も用意しましたが、評価というのをどう考えるのか。「図書館がどうあるべきか」というのがないと評価はできませんので、そこを考えていただくというのものもあるかなと思っております。「アウトカム」(顧客満足)という部分をどうとらえるかということがありますし、それが「結果」なのか「目的」なのかということは難しいとは思いますが、そこをもう少し分析できればと思っていたというのが正直なところです。
委員	いままで、たとえば「資料3をどう見るのか」というのが、この協議会の大きな話題になっていたと思うのです。本来は、館長がおっしゃったようにテーマがあって、それに基づいて話し込んでいくというのがいいのかもしれないけれど、いままでの流れからすると、「これを何とかしないとイケないのかな」という気になるのですが…。
議長	去年から、せつかく2年間いっしょに話し合いをするなかで、明確な目標も曖昧だし、その結果、答えも出せていないので、あと2回の会議のなかで評価をしっかりと

	<p>答えとして出す機会もあればいいかなと思います。それに向けて次回どのような感じにさせていただければいいのか示していただければと思います。</p>
館長	<p>一般的には「図書館の設置および運営の望ましい基準」というのが出ています。「望ましい基準」ということなので、「こうあるべきだ」ということではあるのですが、10年くらい前ですと、こういうものを用いて図書館を評価していくということがトレンドだったのですが、ここ3年～5年分くらい、いろいろな図書館大会の資料や図書館雑誌等を繰ってみたのですが、そういうものについての議論、あるいは論文がほとんど見当たらないので、「望ましい基準」を用いて評価するという点については、壁にぶち当たっているのかなと思っています。いま、これを用いて具体的にしているのは、関西では豊中市くらいで、他のところでは、こういう議論はほとんどないように聞いています。ホームページを見ていただければ、「こんなことをされているのか」ということがわかるかと思いますが、図書館協議会についても、評価についても、かなりいろいろなことをあげておられるので、「ああいうやり方はあるな」とは思います。豊中とは規模も違いますし、同じようにはできないと思うのですが、そういうものについて見直す契機とするべきかという思いはあります。</p>
委員	<p>昨年度、数回あったなかでは、建て替えがものすごく大きな項目でありましたし、「マツゾウくん」のありようというので話をしていたので、今年度館長が変わられて、ずいぶん変わったなあと思っています。先ほど、ここで湖南工業団地の展示をされて、映像も流されたという話を聞いて、「それをサンヒルズに図書館の企画として持っていくとか、ここでする事業ばかりでなくてもいいんじゃない？」と聞いていたけれど、館長が「公立図書館の役割が大事」ということを言われたので、「公立図書館の役割となると、ちょっと違うのか」と思いながら聞いていました。昨年度とは協議会の内容がずいぶん変わってきたので、新たに、今年度あと2回くらいある図書館協議会をどのように持っていくかというのをもう少し示していただいたうえで議論するなり、去年、「マツゾウくん」に対していろいろな意見が出たのが、そのままになっちゃったりしていますので、それも含めて次回議論ができればと思います。</p>
議長	<p>ありがとうございます。では、外部評価の「図書館協議会からの意見」というのがみなさん気になっていると思いますので、次回ここが埋まるような議論をすればいいということでしょうか。</p>
委員	<p>去年の場合、こちらに書いておられたことに対して、「ここはどうだ」という感じで埋めていたのですが、館長がおっしゃっていたニュアンスとは去年のやり方は違うような気がするので、「これについて、私たちはこう思う」ということならすぐできると思うが、「全体を見ながらどう考えるのか」ということなら、もう少し議論が必要だと思います。</p>
議長	<p>確かにいまのところ、みなさんからいただく意見がバラバラなので、どのようにまとめて甲西図書館・石部図書館が存在意義を示していくのかという指針が見えると、この協議会の存在も意義があるかと思っています。そこに向かうには、次の第2回の会議も大事にしたいと思っています。次回までに、どのように進めていけばみなさんの意見を</p>

	反映させられるかということも考えたいと思いますので、ご指導いただきたいと思 います。よろしくお願いします。
館長	サンヒルズのほうでというご意見もいただいたのですが、ここでいろいろなことを するという以外にも、一般的に「出前講座」といわれるものに当たると思うので すが、そういうこともできるだけ「出前講座というやり方もあるよ」ということは PR をしていきたいと思っています。ですので、ビデオを持って行って、「こんな展示もし ましたよ」とか「こんな資料もあるんですよ」などというようなこともしたいと思っ ています。今回も団地協会にもお話をさせていただいて、いろいろとアドバイスをい ただきました。それが十分に生かしきれなかったので、そこに心残りはあるのですが、 外に出て行ってということではできる限りしたいと思っています。まだ PR が足りない と思っています。
議長	ありがとうございます。いろいろなところで関わりを持っていただいて、気軽に足 を運んでいただくことも大切なので、一人一人の意見を取り入れていくと数字が目 に見えて変わってくると思いますので、ぜひとも取り入れていただきたいと思いま す。では、「その他」に移ります。次回会議の日程を決めるということになりますか。
館長	年 4 回の会議ということで、1 回目が遅くなって 7 月になってしまったものでは から次回は 9 月末あるいは 10 月初めあたりにできればと思っています。
事務局	欠席のかたのご都合もお伺いしたうえで次回の日程を決めさせていただきます。
議 長	ではこれをもちまして第 1 回の図書館協議会を終了させていただきます。

[閉会] (午後 6 時 0 0 分)